

鎌倉権五郎景政は源義家に従い、後三年の役に奥州各地を転戦し、敵の矢を右眼に射立てられても、ひるまず奮戦し、凱旋の途中薬師堂山の滝で目を洗い、眼の治療をしたとのことで、この滝を目洗いの滝と云い、薬師様を目洗薬師と云います。

なおこの滝の水が小川となり滝本さん脇に流れ街道をわたっていました。

その小川と街道の交又点当りにお地尊様が二体並んで建っていたのですが、今は戦災で一体のみとなつています。

昔、旧東海道、新しくは生系の道の旅人が旅の安全を願ひ建てたものかと思われます。